

学生生徒の健康管理に関する調査

(環境調査と健康管理)

水 谷 英 三
篠 田 道 子

緒 言

教育は社会が社会の生命を存続するために行う自己更新の機能であるといわれる。社会はこの機能なしに自己の永遠の生命と、そのたえざる進歩とを図ることはできないのである。しかるに社会はこの機能によって直接に自己を更新することはできない。自己更新は目的であり、教育は手段としての社会機能であって、この手段に導かれて社会の目的を直接に達成するものは、その成員であるところの人間であるからである。

肉体教育・健康教育は人間が社会の成員として、成長発達する過程を計画的に指導する社会の機能の一部であるから、つねに対象である人間をよく理解することが必要である。個人を理解する上に最も大切なことは、まず第一に人間が生活環境によってどのように変って来たか、環境が今後の成長にどのように影響して行くかということだと思ふ。

生活環境によって心身の成熟が發育段階を変化させるということについては、心理学・体育心理学・保健学・衛生学、はたまた体育学会・体育医学会等の多くの研究資料によって発表されている。しかしこの多くの研究資料も学校教育の場において發育旺盛な年代層に及ぼす生活環境の影響ということをも、果してどこまで念頭に置いてなされているか、学問的研究が如何に処理されているかということについては疑問の余地があると思ふ。

学校における健康管理に関与する者としては、家庭生活の主体である父兄と緊密な連繫のもとに管理し監視しなければならない。また学校においての体育

の指導方法が直接間接に生徒各自の心身の発育に如何に反映しているか、また体育の業種によっても如何に心身の発達に左右されるものであるかということ、生徒各自に自覚させることも必要である。

この意味のもとに今後の健康教育管理強化のために、健康基本調査票を作り生徒各自の自覚するまゝを赤裸々に記録せしめ、そしてこれを定期の身体検査のデータと比較対照し、種々の相関関係を研究し、今後の体育指導上の参考資料及び学校における健康管理の基本たらしめんとしたのである。今その第一報として、その調査内容の一端を簡単に報告する。

調 査 方 法

この調査は健康の基本調査と題して三枚からなり、1～29迄の質問事項を中学校以上は本人により、小学校以下は保護者によって書かせる質問試法である。(別票No.1, No.2, No.3)

健 康 の 基 本 調 査 No.1, No.2, No.3

| | |
|-------------------------|------------------------------------|
| 1. 学 年 () 組 () 番号 () | (備 考) |
| 2. 現 住 所 () | |
| 3. 出 身 校 | |
| 幼稚園 () | ○学校の所在地 (府・県・市) もはっきり書いて下さい。 |
| 小学校 () | |
| 中学校 () | |
| 高等学校 () | |
| 4. 生年月日 | |
| 昭和 () 年 () 月 () 日生 | |
| 5. 住所の移動 | |
| 府県 市 町村 () 年 () 月 | ○移動年月もはっきり書いて下さい |
| 府県 市 町村 () 年 () 月 | |
| 府県 市 町村 () 年 () 月 | |
| 府県 市 町村 () 年 () 月 | |
| 府県 市 町村 () 年 () 月 | |
| 府県 市 町村 () 年 () 月 | |

学生生徒の健康管理に関する調査（水谷・篠田）

6. 家 族

| 本人との関係 | 生年月日 (死亡年月日) | 職業 | 既往症 | 運動経験年数 (種目) |
|--------|-----------------|----|-----|----------------|
| 父 | 年月日生 (死亡年月日) | | | |
| 母 | 年月日生 (死亡年月日) | | | |
| | 年月日生 (死亡年月日) | | | |
| | 年月日生 (死亡年月日) | | | |

- 出来るだけ詳しく書いて下さい
- 祖父母同居人も書いて下さい。
- 職業は詳しく記入して下さい。
- 既往症も詳しく記入して下さい
- 運動経験年数とは持続して行っているものをいいます。

7. 戦災状況

〔全焼, 半焼, 受けた回数(1回2回3回4回5回6回) 戦災を受けない〕

8. 戦争中の疎開状況

〔疎開しない, 疎開した(集団, 個人)
疎開先地名(府県 市 町村)〕

9. 家の所在地域

〔住宅地, 商店街, 工場地帯, その他()〕

10. 家庭における部屋数

〔自宅, 借家, 間借, 下宿〕

| 日本間 (大きさ) | (数) | 洋間 (大きさ) | (数) |
|--------------|--------|-------------|--------|
| (帖) | (室) | (帖) | (室) |
| (//) | (//) | (//) | (//) |
| (//) | (//) | (//) | (//) |
| (//) | (//) | (//) | (//) |
| (//) | (//) | (//) | (//) |

- 洋間も大体のたたみ数に直して下さい。

その他の部屋

| (部屋名) | (大きさ) | (数) |
|-------|--------|--------|
| () | (帖) | (室) |
| () | (//) | (//) |
| () | (//) | (//) |
| () | (//) | (//) |
| () | (//) | (//) |
| () | (//) | (//) |

- その他の部屋としては合所, 風呂場, 物置等部屋として存在している場所を書いて下さい。

11. 家庭より学校迄の距離, 交通利用度

例(家 徒歩 西宮北口) (西宮北口 阪急 岡本) (岡本 徒歩 学校)
300m 700m
() () ()

- 自転車, バス, その他の利用があればそれも書いて下さい。

12. 家畜の種類及び数例

(犬 1匹) () ()
() () ()

13. 家庭における勉強時間

- 朝食前に()時間位勉強する
- 朝食一登校に()時間位勉強する
- 下校一夕食に()時間位勉強する
- 夕食一就寝に()時間位勉強する

14. 一日に食べる間食の平均費用

- 菓子()円位 果物()円位

15. 一日の平均睡眠時間

- ()時間位

16. 家庭でのラジオ、テレビの利用度

- ラジオを一日平均()時間位さく
- テレビを一日平均()時間位みる

17. 稽古事の種類、時間

- (種類) (一週間何回) (一日の稽古時間)
- () (回) (時間)
- () (回) (時間)
- () (回) (時間)

18. 両親の運動に対する理解度

- 父〔大変好き、好き、普通、嫌い、大変嫌い、判らない〕
- 母〔大変好き、好き、普通、嫌い、大変嫌い、判らない〕

19. 貴女の趣味

- () () () () ()

20. 一カ月に使うお小遣いの平均費用

- ()円位

21. 食物の好き嫌い

- 好きな食物()
- 嫌いな食物()

22. 庭の広さ

- 大体()坪位

23. 家庭にある運動の設備、用具をあるだけ書いて下さい。

- ()

24. 学校で入っている自治会の部

- 例(バスケット)部(中一、中二、中三、高一、高二、高三)
- ()部(中一、中二、中三、高一、高二、高三)
- ()部(中一、中二、中三、(高一)(高二)高三)

○試験前、試験中及び休日、休暇中を除いた一週間の平均時間

○特殊な時は除いて下さい。

○特殊な時は除いて下さい。

○なるべく主なものから順に書いて下さい。

○学用品やその他学校関係の費用は除いて下さい。

○何年の時に何部に入ったかを書いて下さい。

○中一は入ろうとする部を書いて下さい。

学生生徒の健康管理に関する調査（水谷・篠田）

- () 部（中一、中二、中三、高一、高二、高三）
 () 部（中一、中二、中三、高一、高二、高三）
 () 部（中一、中二、中三、高一、高二、高三）
25. 本人の運動に対する理解度
 [大変好き、好き、普通、嫌い、大変嫌い、判らない]
26. 保健衛生に関する学校への希望
 ()
27. 運動に関する学校への希望
 ()
28. 本人の健康度
 [大変健康、健康、普通、あまり丈夫でない、弱い、判らない]
29. 本人が今迄にかかった病気
 例 ($\frac{\text{百日咳}}{5才}$) () () ()
 () () () ()
 () () () ()
- 思ったことを何でも書いて下さい。
 ○軽い病気でも出来るだけ全部書いて下さい。

調査をするにあたって記入上の注意のみを読みあげ、他は備考に書き入れることのみを注意し、口答では何も説明しないことにした。（別票 No. 4）

記 入 上 の 注 意 No.4

- この調査の個人的な記録は絶対秘密を守りますから安心して書いて下さい。
 ○この調査には、人の言葉に左右されないでありのまま自分で思った通りを正直に書いて下さい。
 ○()の中に記入するか、[]の中の適当なところへ○をつけて下さい。
 ○記入に関して疑問の点があれば、赤鉛筆で番号の箇所○をして下さい。
 ○関係のない項目は/して下さい。

調 査 問 題 分 類

- 1～5 本人の成長段階における環境調査
 7～8 戦争による家庭環境の変化調査
 9～17 家庭における生活環境調査

- 18～23 本人の生活態度の調査
24～27 本人の学校における生活態度調査
28～29 本人の健康度における調査

調査問題分類 2

- (1) 簡単想記法 Simple-Recall Forms
略号 S. R. No. 1, 2, 3, 4, 24
- (2) 完 成 法 Completion Forms
略号 C. No.5,6,10,11,12,13,14,15,16,17,20,22,24,30,32
- (3) 多数選択法 Multiple Choice Forms
略号 M.C. No.7,8,9,10,18,24,25,28,31,32,33,34,35,36,37
- (4) 多数想記法 Multiple Reccall Forms
略号 M.R. No.19,21,23,26,27,29,38,39

問題を作製するに当って、成長に関係ある環境のどの部分を選ぶかが重要な問題だと思う。昭和25年調査の資料に必要な項目を加え、不必要な項目を除いてここに調査問題を作成して見た。問題整理に当って改めねばならぬ点の多くを見出すことが出来た。意とするところはあらゆる角度から、生徒個人又は学園全部の何物かが得られればと思って調査を実施したのである。

調 査 対 象

甲南幼稚園，甲南小学校，甲南女子中学校，甲南女子高等学校，甲南女子短期大学。

連繫ある一連教育の場の中の幼児，児童，生徒，学生，全員につき用紙を配布し解答を求めた。年令満四才～満二十才迄の者が含まれている。

調査期日 昭和30年7月13日～7月16日

学生生徒の健康管理に関する調査（水谷・篠田）

調査用紙配布人員と解答者人員

| 学 種 別 | 幼稚園 | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 短期大学 | 合 計 |
|---------------|-------|-------|---------|---------|-------|---------|
| 解答人員/ 配布人員 | 31/33 | 91/95 | 377/397 | 304/359 | 67/80 | 877/964 |
| % | 93.93 | 95.78 | 94.96 | 84.67 | 83.75 | 90.24 |

この調査は解答が全く自由で、解答提出迄に4日間の期間を与えたことが上級の%を低くしたのだと思われる。未提出者には催促をしなかった。幼稚園、小学校は先生に依頼したので欠席者以外は全員提出ということになった。中学校、高校を学年別に%を出すと、次の如くなる。

学 年 別 解 答 率

| 学 年 別 | 中 一 | 中 二 | 中 三 | 中学合計 | 高 一 | 高 二 | 高 三 | 高校合計 |
|---------------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|--------|---------|
| 解答人員/ 配分人員 | 127/134 | 127/130 | 124/134 | 378/398 | 123/132 | 93/110 | 89/118 | 305/360 |
| % | 94.77 | 97.69 | 92.53 | 94.97 | 93.18 | 84.54 | 75.42 | 84.72 |

上級になるにしたがって提出物が怠慢になることが数字の上で現われた。同じ条件にて収集したのであるから参考になる%だと思う。

解 答 者 の 年 令 別 人 員（昭和30年7月1日付満年齢）

| 学 種 別 年 令 人 員 | 幼 稚 園 | | | 小 学 校 | | | | | | | | 中 学 校 | | | | 高 等 学 校 | | | | 短 期 大 学 | | | |
|---------------------------------|-------|----|---|-------|----|----|----|----|----|----|----|-------|----|----|----|---------|----|----|----|---------|----|--|--|
| | 4 | 5 | 6 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 12 | 13 | 14 | 15 | 15 | 16 | 17 | 18 | 18 | 19 | 20 | | |
| 人 員 | 6 | 16 | 9 | 13 | 10 | 17 | 13 | 18 | 15 | 5 | 83 | 142 | 95 | 57 | 89 | 105 | 81 | 29 | 24 | 29 | 14 | | |

※参 考

調査学園は、幼稚園・小学校男女共学各一クラスづつ
 中学校・高等学校女子のみ三クラスづつ
 短期大学 女子のみ一クラスづつ

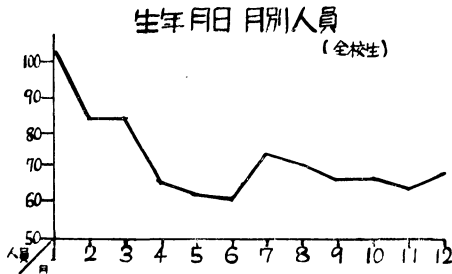
年令別人員配分において満12才迄と18~20才迄の人員が他に比して少ないのは、学種別において参考数を考えれば分る。この調査と他の集団との相関は人員の関係で年令別であれば可能であるが、全体もしくは学種別の比較は不能である。

被検者の成長段階に於ける環境調査 (家庭環境・生活環境)

各年度に種々なる形で調査するデーターもなんら教育面には考慮されることなく、一般的な経験から又概念の上のみ立脚されて教育面に考慮されることに多くの疑問を持つ、形成している社会の持つ姿又その社会が包容されている他社会との連繋は、如何なるものであるか等種々なる関係と結びつけて教育を考えるべきである。調査対象となった学園も、一般的に上流の学校であると概念の上で批判されるのみで、如何なる点がこれを物語っているのかを調査する必要がある。又どの程度なのか等を詳細に調べて見る必要がある。このような意味で、先ず最初に成長の段階における家庭環境・生活環境を挙げて見た。

(A) 被検者の生年月日月別配分

| 月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 人員 | 前後 | 前後 | 前後 | 前後 | 前後 | 前後 | 前後 | 前後 | 前後 | 前後 | 前後 | 前後 |
| | 56 | 47 | 44 | 40 | 45 | 39 | 27 | 38 | 33 | 29 | 26 | 35 |
| | 30 | 44 | 40 | 45 | 39 | 27 | 38 | 33 | 29 | 26 | 35 | 30 |
| | 44 | 40 | 45 | 39 | 27 | 38 | 33 | 29 | 26 | 35 | 30 | 44 |
| | 37 | 31 | 36 | 35 | 32 | 41 | 23 | 37 | 31 | | | |



生年月日は季節、風土、気候、仕事等が授精に関係するために、この調査でも種々なる相関が得られると思われる。各月を1日～15日迄を前半とし、

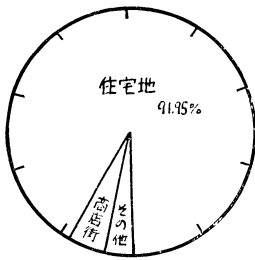
16日～残りを後半とすれば10月～3月迄は前半に多く、4月～9月迄は5月を除いて後半に多く生れていること、又1月を頂点として6月頃迄グラフの曲線が下り、他は各月同程度であること等面白いデーターである。

(B) 被検者の住宅の所在地域

| 地域別人員 | 住宅地 | 商店街 | 郊外 | 工場地帯 | ビル街 | 別荘地 | その他 | 未記入 |
|-------|-------|------|------|------|------|------|------|------|
| 人員 | 800 | 46 | 6 | 5 | 4 | 2 | 2 | 5 |
| % | 91.95 | 5.20 | 0.58 | 0.54 | 0.45 | 0.22 | 20.2 | 0.54 |

学生生徒の健康管理に関する調査（水谷・篠田）

住宅の所在地域



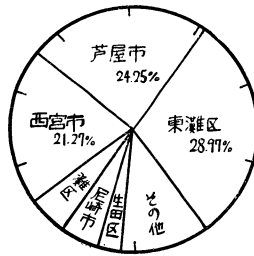
郊外は住宅地と異り野原の中、田園中等の一軒建をいう。ビル街はアパートオフィス街等の鉄筋建をいう。別荘地は住宅を一軒持っていて、その他の環境の良い方に住んでいるのをいう。

これで分るように 90% が住宅街にすんでいる商店街、工場地帯、ビル街等成長段階の子供に良い影響を与えない場所は%が低いことは、この学園の生活環境が良いことを証明している。

(C) 住宅の所在地内容

| 地域 | 東灘区 | 芦屋市 | 西宮市 | 灘区 | 尼崎市 | 生田区 | 垂水区 | 宝塚市 | 須磨区 | 大阪市 | 葦合区 | 伊丹市 | 長田区 | 吹田市 | 兵庫区 | 明石市 | 大阪府 |
|----|-------|-------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 人員 | 252 | 211 | 185 | 53 | 43 | 26 | 24 | 18 | 11 | 10 | 9 | 7 | 6 | 4 | 3 | 3 | 5 |
| % | 28.97 | 24.25 | 21.27 | 6.09 | 4.94 | 2.98 | 2.75 | 2.07 | 1.26 | 1.14 | 1.03 | 0.80 | 0.68 | 0.45 | 0.34 | 0.34 | 0.55 |

住宅の所在地



| 利用交通 (主に用いる) | 国鉄 | 阪急 | 国道 電車バス | 徒歩 | 市バス | 未記入 |
|-----------------|-------|-------|------------|-------|------|------|
| 人員 | 244 | 221 | 217 | 169 | 5 | 14 |
| % | 28.04 | 25.40 | 24.94 | 19.42 | 0.57 | 1.60 |

| 電車使用時間 (片道) | 10分 | 20分 | 30分 | 40分 | 50分 | 60分 | 60分以上 |
|----------------|-------|-------|-------|-------|------|------|-------|
| % | 28.97 | 24.25 | 21.27 | 15.64 | 9.07 | 0.38 | 1.88 |

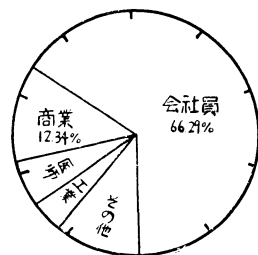
所在地内容を住宅の所在地と交通の利用，主用交通別に%を調べると所在地調査で示した如く，住宅地の大部分が東灘区・芦屋市・西宮市等に含まれている阪神間の交通の便利な点からして，阪神の中間に位しているこの地域に大部分の住宅がある。又，父兄の職業別調査と比較しても面白い相関が出るように思われる。交通の利用は主に利用する交通を一つのみ取り出し%としたものである。

(D) 父 兄 職 業 別 調 査 (昭和30年4月調査)

| 職業 | 農業 | 工業 | 商業 | 公務員 | 教員 | 医師 | 弁護士 | 会社員 | 醸造業 | 交通業 | 海員 | 無職 | その他 | 合計 |
|----|----|------|-------|------|------|------|------|-------|------|------|------|------|------|-----|
| 人員 | 0 | 33 | 122 | 20 | 31 | 65 | 1 | 655 | 9 | 3 | 1 | 34 | 14 | 988 |
| % | 0 | 3.34 | 12.34 | 2.02 | 3.13 | 6.57 | 0.10 | 66.29 | 0.91 | 0.30 | 0.10 | 3.44 | 1.41 | |

この調査の中の工業は，工業関係の仕事を経営しているもののみを取り上げている。会社員は重役，社長等会社の幹部級もすべて会社員として含んでいる。無職の中に地主，株主等により生活している者を含み，大部分が父親を亡くしている者である。商業の大部分が神戸市内であるのは，学園近くの商業を家業とする者が無いことを意味している。調査人員は 988 名である。

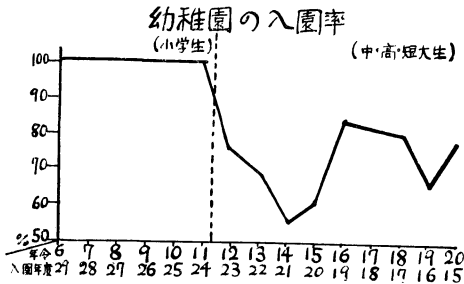
保護者の職業



(E) 幼 稚 園 就 学 率

| | | | | | | | | | |
|-------|--------|-------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|---------|
| 年令 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
| 就学/人員 | 6/6 | 16/16 | 22/22 | 10/10 | 17/17 | 13/13 | 18/18 | 15/15 | 68/88 |
| % | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 77.27 |
| 年令 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 合計 |
| 就学/人員 | 98/142 | 52/95 | 89/146 | 87/105 | 66/81 | 42/53 | 19/29 | 11/14 | 649/870 |
| % | 69.01 | 54.73 | 60.95 | 82.85 | 81.48 | 79.24 | 65.51 | 78.57 | 74.59 |

学生生徒の健康管理に関する調査（水谷・篠田）



年令11年迄は幼稚園を経て小学校に入学した者である故 100%である。14年
が最も低いのは戦争の終了した翌年に幼稚園入学の年令であるからである。曲
線を見れば分るように、戦争が幼稚園の入学に影響していることが良く分る。
又 19 年で曲線が下降しているのは調査人員が少ないためであると思われる。

参考のために小学校の出身校数を調べて見ると、中学校以上の 753 名の調査
では 122 校の多きにのぼっている。又県外の出身小学校は32校である、これも
親の転勤等による転校による者と判定出来る。

被検者の戦争による家庭環境の変化調査

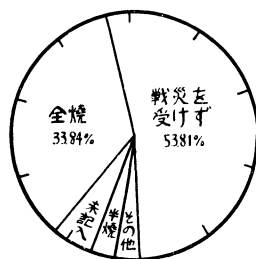
成長段階にあっては身体的な成長に重要な環境調査の中で、家庭環境が成長
段階に如何に変化しているかを考えて見る必要がある。これは身体測定値とと
もに考え合せる時、意味のあるものになって来ると思う。現在の 10 年以上～
35 年位迄の年令では、戦争が必ず成長に関係していると見ても良いと思われ
る。戦争中の戦災、疎開、又は住居の転宅等を環境の変化と見なし調査を行っ
て見た。

(A) 住居の戦災状況

| 戦災状況 | 戦災を受けず | 全焼 | 半焼 | 半壊 | 全壊 | 不明 | 未記入 | 合計 |
|------|--------|-------|------|------|------|------|------|-----|
| 人員 | 423 | 266 | 41 | 9 | 2 | 2 | 43 | 786 |
| % | 53.81 | 33.84 | 5.21 | 1.14 | 0.25 | 0.25 | 5.47 | |

これによる約半数が何らかの形で戦災を受けたことがわかる。戦災を受けた320名の中には2回が24名、3回が8名含まれている。なお総人員786名は、10年以上の年齢の者の調査で、戦争中に生れていた者のみの調査である。参考として外地よりの引揚者数は786名中、42名である。

住居の戦災状況



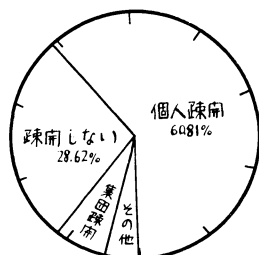
(B) 戦争中の疎開状況

| 有無 | 疎開しない | 疎開した | 未記入 | 合計 |
|----|-------|-------|------|-----|
| 人員 | 225 | 540 | 21 | 786 |
| % | 28.62 | 68.70 | 2.67 | |

約7割の者が疎開をしているその7割中、大部分が個人疎開で当時小学校、中学校等でやかましくいわれていた学校単位の疎開がわずかしかないのは、家庭でそれぞれ疎開先を探し集団疎開をさせなかったためだと思われる。

| | 集団疎開 | 個人疎開 | 不明 |
|----|------|-------|------|
| 人員 | 14 | 478 | 48 |
| % | 2.59 | 88.51 | 8.88 |

戦争中の疎開状況



学生生徒の健康管理に関する調査（水谷・篠田）

(C) 住居の移動回数

| 回数 | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|------|---|
| 人員 | 150 | 90 | 283 | 169 | 103 | 53 | 14 | 8 | 0 |
| % | 17.24 | 10.34 | 32.52 | 19.42 | 11.83 | 6.09 | 1.60 | 0.91 | 0 |

この数は被検者が生れてからの数である。3回以上の転居者が約40%強あって、思ったよりも数が多いのは職業別調査と考えあわせて、会社員が多いため転勤の多いことを物語っている。年齢別の調査も殆んど同じような結果が出ている。5回以上の転居者の約8割が転校者であることもうなずける。

| 人員 % | 回数 | | | | | | | | | 合計 |
|---------------|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|------------|-----------|-----------|--|-----|
| | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | | |
| 4年～6年 人員 | 20 64.51 | 9 2.90 | 2 0.64 | | | | | | | 31 |
| 6年～12年 人員 | 47 51.64 | 22 24.17 | 15 16.48 | 3 3.29 | 2 2.19 | 2 2.19 | | | | 91 |
| 12年～15年 人員 | 46 12.16 | 31 8.20 | 137 35.18 | 88 3.21 | 52 13.75 | 19 5.02 | 4 1.05 | 1 0.26 | | 378 |
| 15年～18年 人員 | 32 10.49 | 24 7.86 | 107 35.08 | 63 20.65 | 44 14.42 | 26 8.52 | 6 1.96 | 3 0.98 | | 305 |
| 18年～20年 人員 | 5 7.69 | 4 6.15 | 22 33.84 | 15 23.07 | 5 7.69 | 6 9.23 | 4 6.15 | 4 0.15 | | 65 |

この調査の中には疎開も含んでいる。

(D) 住居の種類

| 種類 年齢 | 自 宅 | | 借 家 | | 社 宅 | | 間 借 | | そ の 他 | | 未 記 入 | |
|----------|---------|-------|-----|-------|-----|------|-----|------|-------|------|-------|-------|
| | 人員 | % | 人員 | % | 人員 | % | 人員 | % | 人員 | % | 人員 | % |
| 4～6 | 24/31 | 77.41 | 2 | 6.45 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 16.12 |
| 6～12 | 64/91 | 70.32 | 5 | 5.49 | 5 | 5.49 | 0 | 0 | 0 | 0 | 17 | 18.68 |
| 12～15 | 279/377 | 74.00 | 43 | 11.40 | 16 | 3.97 | 0 | 0 | 0 | 0 | 39 | 10.34 |
| 15～18 | 238/304 | 75.00 | 38 | 11.49 | 10 | 3.28 | 1 | 0.32 | 1 | 0.32 | 26 | 8.55 |
| 18～20 | 55/67 | 82.08 | 1 | 1.48 | 1 | 1.48 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 7.48 |
| 合 計 | 562/748 | 75.13 | 86 | 11.40 | 27 | 3.60 | 1 | 0.13 | 1 | 0.13 | 71 | 9.49 |

殆んどが自宅に住んでいること、間借・社宅・下宿が少ないことは環境を判断するによい資料である。

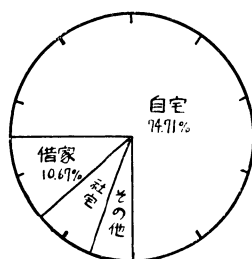
被検者の家庭に於ける生活態度調査

成長段階における幼児、児童、生徒、学生の中で、身体の発達に影響する条件としてはまず (1) 先天的な素質が挙げられるが、これは (2) 栄養 (3) 運動 (4) 休養や睡眠によって制限され、さらに (5) 疾病その他の異常に妨げられる。そのほか、次のような要因も看過されてはならない。

(6) 季節の影響—田原盛氏の発表によると、春から夏にかけて身長は増加するが体重はあまり増加せず、秋から冬にかけては身長の増加が比較的停滞しているのに反して、体重が増加している。このようなことは地域的な気候によっても生ずるのであろう。

(7) 社会環境の影響—児童が居住する地域社会の生活程度や様式が身体の成長発達に影響することは、大正7年より8年間の旧大阪市中央部居住の児童と、同市接統の郡部児童について比較を示した都市郡部別、身長、体重比較表(皆吉質発表)によっても認められる。これによると都市児童は、郡部児童に比して身長においてすぐれ、体重においては大差はない。これは生活態度の影響があると思う。次に生活態度の如何なる点が影響しているか考慮する必要を認め、一部分の生活態度を調査して見た。

住宅の種類



(A) 家庭における勉強時間

| 年令別 | 6 ~ 12 小学校 | 12 ~ 15 中学校 | 15 ~ 18 高等学校 | 18 ~ 20 短期大学 |
|--------|---------------|----------------|-----------------|-----------------|
| 総時間/人員 | 158/91 | 1,095/273 | 890/302 | 156/66 |
| 平均時間 | 1時間42分 | 2時間55分 | 2時間56分 | 2時間36分 |

中学・高校では平均約3時間の勉強時間をもっているが、短大生になるとやや少なくなる。平均睡眠時間と比較しても面白いものが得られる。

学生生徒の健康管理に関する調査（水谷・篠田）

| 年令別 | 種別 | 6～12 小学校 | | 12～15 中学校 | | 15～18 高等学校 | | 18～20 短期大学 | |
|----------------|------|-------------|-------|--------------|-------|---------------|-------|---------------|-------|
| | | 人員 | % | 人員 | % | 人員 | % | 人員 | % |
| 未記入 | | 0/91 | 0 | 4/377 | 1.06 | 2/304 | 0.65 | 1/67 | 1.49 |
| 朝食前 | 0時 | 87 | 95.62 | 336 | 99.12 | 283 | 93.09 | 64 | 95.52 |
| | 0.5時 | 3 | 3.26 | 20 | 5.30 | 12 | 3.94 | 1 | 1.49 |
| | 1時 | 1 | 1.09 | 12 | 3.18 | 7 | 2.30 | 1 | 1.49 |
| | 1.5時 | 0 | 0 | 2 | 0.53 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 2時 | 0 | 0 | 3 | 0.82 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 朝食 — 登校迄 | 0時 | 88 | 96.70 | 354 | 93.89 | 299 | 98.35 | 64 | 95.52 |
| | 0.5時 | 3 | 3.26 | 15 | 3.97 | 3 | 0.98 | 2 | 2.98 |
| | 1時 | 0 | 0 | 4 | 1.06 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 下校 — 夕食迄 | 0時 | 16 | 19.58 | 113 | 28.97 | 140 | 46.05 | 35 | 52.23 |
| | 1時 | 54 | 63.73 | 198 | 52.51 | 130 | 42.76 | 22 | 32.83 |
| | 2時 | 20 | 21.80 | 57 | 15.11 | 32 | 10.52 | 7 | 10.44 |
| | 3時 | 1 | 1.09 | 5 | 1.32 | 0 | 0 | 2 | 2.98 |
| 夕食 後 | 0時 | 50 | 54.94 | 12 | 3.18 | 4 | 1.31 | 2 | 2.98 |
| | 1時 | 27 | 29.67 | 76 | 20.15 | 43 | 14.14 | 32 | 47.76 |
| | 2時 | 12 | 13.18 | 201 | 53.31 | 145 | 47.69 | 24 | 35.82 |
| | 3時 | 1 | 1.09 | 72 | 19.09 | 86 | 28.28 | 4 | 5.97 |
| | 4時 | 1 | 1.09 | 11 | 2.91 | 19 | 6.25 | 3 | 4.47 |
| | 5時 | 0 | 0 | 1 | 0.26 | 3 | 0.98 | 0 | 0 |
| | 6時 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0.65 | 1 | 1.49 |

この表でもわかるように、中学以上になると夕食後しか勉強が出来ないということである。これは運動を好きと記入した被検者の98%が、夕食後以外は勉強しないことによると面白い相関関係である。なお運動の好きと記入した被検者の平均勉強時間が、中学校では2時間02分、高等学校では1時間42分と平均時間より、うんと少ないことは考えねばならない多くのことを意味している。

(B) 一日平均睡眠時間

| 年令別 | 4～6 幼稚園 | 6～12 小学校 | 12～15 中学校 | 15～18 高等学校 | 18～20 短期大学 |
|--------|------------|-------------|--------------|---------------|---------------|
| 総時間/人員 | 313/30 | 855/90 | 3,061/377 | 2,281/297 | 525/67 |
| 平均時間 | 10時間43分 | 9時間30分 | 8時間06分 | 7時間40分 | 7時間49分 |

勉強時間と睡眠時間の相関は意味があると思う。又住宅の所在地域と睡眠時間との関係も面白い数字が出そうである。運動選手と非選手との睡眠時間の比較も意味があると思われる。睡眠時間・勉強時間・住宅所在地域等多くのテーマが、比較することによって得られるのではないだろうか。

| 年令別 | 4～6 幼稚園 | | 6～12 小学校 | | 12～15 中学校 | | 15～18 高等学校 | | 18～20 短期大学 | |
|-----|------------|-------|-------------|-------|--------------|-------|---------------|-------|---------------|-------|
| | 人員 | % | 人員 | % | 人員 | % | 人員 | % | 人員 | % |
| 未記入 | 1/31 | 3.22 | 1/91 | 1.09 | 0/377 | 0 | 7/304 | 2.30 | 0/67 | 0 |
| 6時 | 0 | 0 | 1 | 1.09 | 2 | 0.53 | 16 | 5.26 | 5 | 7.46 |
| 7時 | 0 | 0 | 0 | 0 | 51 | 13.50 | 96 | 31.57 | 12 | 17.91 |
| 8時 | 0 | 0 | 7 | 8.78 | 231 | 61.27 | 154 | 50.65 | 39 | 58.20 |
| 9時 | 2 | 6.40 | 32 | 35.16 | 86 | 22.80 | 29 | 9.53 | 11 | 16.41 |
| 10時 | 15 | 48.38 | 45 | 49.42 | 7 | 1.85 | 2 | 0.65 | 0 | 0 |
| 11時 | 11 | 35.48 | 5 | 5.49 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 12時 | 2 | 6.40 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

幼稚園・小学校を除いて睡眠時間が8時間前後になるのは、勉強時間に関係して来ることがはっきりわかる。年令別に見ても、12年を境として急激に睡眠時間が少なくなることから見てもわかる。又短期大学生になると、稍長くなるのも勉強時間に関係している。曲線の山が中学校・高校・短大は8時間に、幼稚園・小学校は10時間にあることに見られるのは、大体の睡眠時間であることを物語っている。遊びの時間を調査の対象に入れなかったのは、手落ちであったと思う。

学生生徒の健康管理に関する調査（水谷・篠田）

(C) 一日に食べる間食の平均費用（単位、円銭）

| 年 令 学 種 別 | 4 ～ 6 幼 稚 園 | 6 ～ 12 小 学 校 | 12 ～ 15 中 学 校 | 15 ～ 18 高 等 学 校 | 18 ～ 20 短 期 大 学 |
|--------------|----------------|-----------------|------------------|--------------------|--------------------|
| 菓 子 | 29.16 | 28.33 | 30.95 | 32.72 | 35.83 |
| 果 物 | 30.16 | 24.94 | 29.39 | 31.75 | 32.50 |
| 合 計 | 59.32 | 53.27 | 60.34 | 64.47 | 68.33 |

次の調査には研究の対象に入れて見たいと思う。間食を大きく二種類に分けて調査をして見た。これによると、考えていたよりも多くの費用を毎日費していることがわかる。又年令的にはあまり費用の上では差がないことが分った。

| 年 令 学 種 別 | 4 ～ 6 幼 稚 園 | | 6 ～ 12 小 学 校 | | 12 ～ 15 中 学 校 | | 15 ～ 18 高 等 学 校 | | 18 ～ 20 短 期 大 学 | | |
|--------------|----------------|------|-----------------|------|------------------|-------|--------------------|-------|--------------------|-------|-------|
| | 人員 | % | 人員 | % | 人員 | % | 人員 | % | 人員 | % | |
| 未 記 入 | 1/31 | 3.22 | 4/91 | 4.39 | 56/377 | 14.85 | 53/304 | 17.43 | 7/67 | 10.44 | |
| 菓 子 類 | 10円 以下 | 2 | 6.45 | 2 | 2.19 | 1 | 0.26 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 10円 | 2 | 6.45 | 9 | 9.89 | 16 | 4.24 | 16 | 5.26 | 2 | 29.98 |
| | 20円 | 12 | 38.10 | 29 | 31.86 | 120 | 31.83 | 77 | 25.32 | 17 | 25.37 |
| | 30円 | 6 | 19.35 | 32 | 35.16 | 109 | 28.91 | 83 | 27.30 | 18 | 26.86 |
| | 50円 | 7 | 22.58 | 12 | 13.18 | 61 | 16.18 | 64 | 21.05 | 19 | 82.35 |
| | 50円 以上 | 1 | 3.22 | 3 | 3.29 | 14 | 3.71 | 11 | 3.61 | 4 | 5.97 |
| 未 記 入 | 1 | 3.22 | 3 | 3.29 | 49 | 12.99 | 47 | 15.46 | 5 | 7.46 | |
| 果 物 類 | 10円 以下 | 2 | 6.45 | 5 | 5.49 | 3 | 0.31 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 10円 | 1 | 3.22 | 4 | 4.39 | 27 | 7.16 | 15 | 4.93 | 2 | 2.98 |
| | 20円 | 9 | 29.07 | 40 | 43.95 | 138 | 36.60 | 100 | 32.89 | 24 | 35.82 |
| | 30円 | 11 | 35.48 | 31 | 34.06 | 84 | 22.28 | 72 | 23.68 | 18 | 26.86 |
| | 50円 | 6 | 19.35 | 8 | 8.79 | 65 | 17.24 | 56 | 18.42 | 15 | 23.38 |
| | 50円 以上 | 1 | 3.22 | 0 | 0 | 11 | 2.91 | 14 | 4.60 | 3 | 4.47 |

(D) 一月月に使う小遣いの平均費用 (参考資料)

| 年令 学種別 | 6～12 小学校 | | 12～15 中学校 | | 15～18 高等学校 | | 18～20 短期大学 | |
|--------------|-------------|-------|--------------|-------|---------------|-------|---------------|-------|
| | 人員 | % | 人員 | % | 人員 | % | 人員 | % |
| 未記入 | 0/81 | 0 | 46/377 | 12.20 | 25/304 | 8.22 | 2/67 | 2.98 |
| 0円 | 43 | 53.08 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 100円以下 | 7 | 7.69 | 3 | 0.82 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 100円 | 18 | 22.22 | 32 | 8.48 | 9 | 2.96 | 0 | 0 |
| 200円 | 17 | 20.98 | 67 | 17.77 | 19 | 6.25 | 0 | 0 |
| 300円 | 4 | 4.39 | 74 | 19.62 | 50 | 16.40 | 1 | 1.49 |
| 500円 | 0 | 0 | 106 | 28.12 | 114 | 30.23 | 9 | 13.43 |
| 600～900円 | 0 | 0 | 18 | 4.77 | 40 | 13.10 | 7 | 10.44 |
| 1,000円 | 2 | 2.19 | 26 | 6.89 | 44 | 14.47 | 18 | 26.86 |
| 1,000円 以上 | 0 | 0 | 5 | 1.32 | 13 | 4.27 | 30 | 4.47 |

(E) 家庭でのラジオ、テレビの利用度 (本人)

| 年令 学種別 | 4～6 幼稚園 | 6～12 小学校 | 12～15 中学校 | 15～18 高等学校 | 18～20 短期大学 | 合計 |
|-------------------|-------------------|-------------|--------------|---------------|---------------|---------|
| | ラジオ 総時間/ 人員 | 38.5/31 | 94/91 | 575/377 | 510.5/304 | |
| ラジオ 平均時間 | 1時間14分 | 1時間01分 | 1時間31分 | 1時間40分 | 2時間40分 | 1時間36分 |
| テレビ 総時間/ 人員 | 11.5/7 | 42/24 | 93/62 | 74.5/51 | 32/14 | 246/158 |
| テレビ 平均時間 | 1時間38分 | 1時間45分 | 1時間30分 | 1時間27分 | 2時間15分 | 1時間32分 |

テレビを家庭にもっている者は、870人中158人で約18%である。

この数から判断出来ることは、幼稚園・小学校即ち4～12年迄はテレビがあればテレビを見ている時間が長い、視覚から来る方が聴覚から来るものよりも興味があるということがいえると思われる。なおテレビのあるものはラジオも聞いていると思うから、テレビの利用時間+ラジオの利用時間になって来るはずである。中学校以上になると、思っていたよりテレビの利用時間が少ないことがわかる。短大になると、テレビもラジオも急激に増加するのは、勉強時間等と比較して時間的に余暇が多いことがいえる。なお本学園の生徒は10

学生生徒の健康管理に関する調査（水谷・篠田）

人中，2人がテレビを家庭で持っていることになるが，家庭の環境の良いことがこれによってもわかる。

被検者の運動に対する理解調査

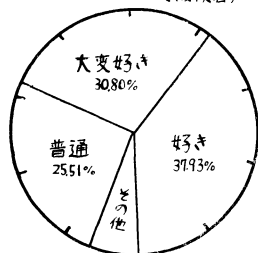
これは被検者の学校における生活態度の調査の一部であって，先ず学校環境の調査が大切と思われるが，次の機会にとらえることとした。本人の運動に対する理解度と両親の理解度を参考に調査して見た。

(A) 運動の好き嫌い調査

〔本人〕

| 年令 学種別 | 4～6 幼稚園 | | 6～12 小学校 | | 12～15 中学校 | | 15～18 高等学校 | | 18～20 短期大学 | | 合 計 | |
|-----------|------------|-------|-------------|-------|--------------|-------|---------------|-------|---------------|-------|--------|-------|
| | 人員 | % | 人員 | % | 人員 | % | 人員 | % | 人員 | % | 人員 | % |
| 末記入 | 5/31 | 16.12 | 6/91 | 6.59 | 7/377 | 1.85 | 2/304 | 0.65 | 1/67 | 1.49 | 21/870 | 2.41 |
| 大変好き | 4 | 12.90 | 25 | 27.47 | 109 | 28.91 | 100 | 32.8 | 25 | 37.31 | 263 | 30.80 |
| 好 喜 | 10 | 32.22 | 26 | 28.57 | 148 | 39.25 | 119 | 39.1 | 27 | 40.29 | 330 | 37.93 |
| 普 通 | 6 | 19.35 | 28 | 30.70 | 102 | 27.05 | 72 | 23.68 | 14 | 20.89 | 222 | 25.51 |
| 嫌 い | 0 | 0 | 2 | 2.19 | 10 | 2.65 | 10 | 3.28 | 0 | 0 | 22 | 2.52 |
| 大変嫌い | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0.32 | 0 | 0 | 1 | 0.11 |
| 判らない | 6 | 4 | 4 | 4.39 | 1 | 0.26 | 0 | 0 | 0 | 0 | 11 | 1.26 |

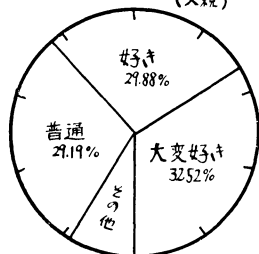
運動の好き嫌い
(被検者)



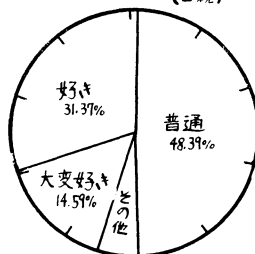
〔父 親〕

| 年 令 学 種 別 | 4～6 幼 稚 園 | | 6～12 小 学 校 | | 12～15 中 学 校 | | 15～18 高 等 学 校 | | 18～20 短 期 大 学 | | 合 計 | |
|--------------|--------------|-------|---------------|-------|----------------|-------|------------------|-------|------------------|-------|-----|-------|
| | 人 員 | % | 人 員 | % | 人 員 | % | 人 員 | % | 人 員 | % | 人 員 | % |
| 未 記 入 | 0/31 | 0 | 6/91 | 6.59 | 20/377 | 5.39 | 25/304 | 8.22 | 2/67 | 2.98 | 53 | 6.09 |
| 大 変 好 き | 12 | 38.07 | 44 | 48.35 | 118 | 31.29 | 82 | 26.97 | 27 | 40.29 | 283 | 32.52 |
| 好 き | 13 | 41.93 | 22 | 24.17 | 126 | 33.42 | 79 | 25.98 | 20 | 29.80 | 260 | 29.88 |
| 普 通 | 6 | 19.35 | 18 | 19.78 | 105 | 27.85 | 108 | 35.52 | 17 | 25.37 | 254 | 29.19 |
| 嫌 い | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 1.32 | 6 | 1.97 | 1 | 1.49 | 12 | 1.37 |
| 大 変 嫌 い | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0.32 | 0 | 0 | 1 | 0.11 |
| 判 ら ない | 0 | 0 | 1 | 1.09 | 3 | 0.82 | 3 | 0.98 | 0 | 0 | 7 | 0.80 |

運動の好き嫌い
(父親)



運動の好き嫌い
(母親)



〔母 親〕

| 年 令 学 種 別 | 4～6 幼 稚 園 | | 6～12 小 学 校 | | 11～15 中 学 校 | | 15～18 高 等 学 校 | | 18～20 短 期 大 学 | | 合 計 | |
|--------------|--------------|-------|---------------|-------|----------------|-------|------------------|-------|------------------|-------|---------|-------|
| | 人 員 | % | 人 員 | % | 人 員 | % | 人 員 | % | 人 員 | % | 人 員 | % |
| 未 記 入 | 0/31 | 0 | 2/91 | 2.19 | 10/377 | 2.65 | 9/304 | 2.96 | 0/67 | | 021/870 | 2.41 |
| 大 変 好 き | 2 | 6.45 | 26 | 28.57 | 58 | 15.38 | 33 | 10.85 | 8 | 11.94 | 127 | 14.59 |
| 好 き | 18 | 58.06 | 30 | 32.90 | 121 | 32.09 | 83 | 27.30 | 21 | 31.34 | 273 | 31.37 |
| 普 通 | 10 | 32.22 | 31 | 34.06 | 177 | 46.94 | 168 | 55.26 | 35 | 52.23 | 421 | 48.39 |
| 嫌 い | 0 | 0 | 1 | 1.09 | 5 | 1.32 | 9 | 2.96 | 3 | 4.47 | 18 | 2.06 |
| 大 変 嫌 い | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0.32 | 0 | 0 | 1 | 0.11 |
| 判 ら ない | 1 | 3.22 | 1 | 1.09 | 6 | 1.59 | 1 | 0.32 | 0 | 0 | 9 | 1.14 |

学生生徒の健康管理に関する調査（水谷・篠田）

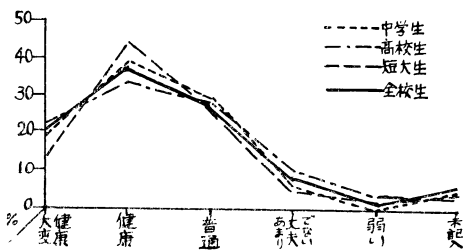
この表で個人のを見ると、年齢によって運動の好き嫌いは変化が少ないということがわかる。大変好きが年齢が増すと同時に比例して増加して行くことは、普通が減少して行くことにより学校体育授業の効果と見做しても良いと思われる。又嫌いになる、大変嫌い、嫌い、は考えていたよりも少ないということがわかる。女子は年齢が増すにしたがって肉体的な関係から嫌いになる数が増えるであろうことを誰もが考えるのであるが、考えが間違っていることがこの統計から読み取れる。

又父親、母親を考えると、父親の方は子供達の%に殆んど近い面をもっている。母親の%は、年少者の%に近くなっているのは面白い結果である。母親の育った時代を考えると面白い結果が得られるであろう。しかし三者とも嫌い、大変嫌いの部の%が殆んど同じであるのは、肉体的な関係、次に述べる自觉健康度等に関係があると思う。

(B) 被検者の自觉健康度

| 年令 学種別 | 4~6 幼稚園 | | 6~12 小学校 | | 12~15 中学校 | | 15~18 高等学校 | | 18~20 短期大学 | | 合 計 | |
|-----------|------------|----------|-------------|----------|--------------|-----------|---------------|-----------|---------------|----------|--------|-----------|
| | 人員 | % | 人員 | % | 人員 | % | 人員 | % | 人員 | % | 人員 | % |
| 未 記 入 | 1/31 | 3.22 | 9/91 | 9.89 | 19/377 | 5.03 | 13/304 | 4.27 | 3/67 | 4.47 | 45/870 | 5.17 |
| 大 変 健 康 | | 4 12.90 | | 20 21.9 | | 73 19.36 | | 161 20.06 | | 9 13.43 | | 167 19.19 |
| 健 康 | | 14 45.16 | | 33 36.26 | | 148 39.25 | | 103 33.88 | | 30 44.70 | | 328 37.70 |
| 普 通 | | 10 32.22 | | 23 25.27 | | 113 29.97 | | 89 29.27 | | 19 28.35 | | 254 29.19 |
| 余り丈夫でない | | 2 6.45 | | 6 6.59 | | 23 6.10 | | 30 9.86 | | 4 5.97 | | 65 7.37 |
| 弱 い | | 0 0 | | 0 0 | | 0 0 | | 8 2.63 | | 1 1.49 | | 9 1.03 |
| 判らない | | 0 0 | | 0 0 | | 1 0.26 | | 0 0 | | 1 1.49 | | 2 0.22 |

自觉健康度



唯単に自分の体を健康と思うか弱いかという思ったままを記入させるのであるから、実際には正しい健康度は相当な開きがあると思われるが、身体検査の結果と比較し%を出せば両者の間に関係が見られると思われる。

る。又自覚健康度と運動の好き嫌いの中に相関があるように思われる。

結 論

この調査は学園を他校又は全国的なデータと比較対象することより、有意な結論が得られることは勿論であるが、本調査のみにも吾々の経験から得ている概念と実際の％との比較は容易であるため、参考数字が多いということである。調査人員中4～12年と、18～20年迄の人員が少ないため、他との比較は無理である。

解答率が思ったより良い結果であったことは、今後の調査をするに当って意を強くした。

1. 被検者の成長段階における環境調査の中で、項目が少ないため目的とする成長段階なる言葉が適当でないかも知れないことがわかった。吾々の考えていた成長段階の環境に戦争を除けば、思っていたよりも良いという結果が得られた。それは(A)の住宅の所在地域、(C)の所在地環境、(D)の職業別調査等により明らかなことである。

(A)の生年月日調査は多くの考慮せねばならぬ点を見出した。(1)月別の前半に生れる子が何故多いか。(2)1月に生れる子が、この地方の環境と如何なる関係があるか。(3)6月に何故曲線が下るか、等である。(E)の幼稚園就学率は現在の4～20迄の被検者群は、戦争に多くの関係があることがわかった。

2. 被検者の戦争による家庭環境の変化調査では、都市生活者と農村生活者の戦争による変化の比較が出来ると思われる。又考えていたより家庭環境は戦争により影響していることがわかる。又環境の変化数等により肉体的な成長の相関は(+)であるとして、研究のテーマと出来ると思われる。(B)疎開と成長との相関も(+)として研究されねばならぬ。疎開した群、しない群との比較も出来るよう思われる。

3. 被検者の家庭における生活態度調査では、(A)勉強時間と睡眠時間と運動する時間との相関が興味あるテーマで研究の余地がある。

(一) 住宅の所在地域と勉強時間

(二) 職業別と運動選手の比

学生生徒の健康管理に関する調査（水谷・篠田）

(三) 運動選手と非選手の睡眠時間・勉強時間等の関係を研究する必要がある。

(C) の間食の問題も成長段階に考えねばならぬ、多くの点をもっているものと思われる。

4. 被検者と家庭（両親）の運動に対する理解も、次のような相関関係を研究せねばならぬ。(一) 両親の理解と子供の理解は相関(+)として研究せねばならぬ。(二) 自覚健康度と体格検査の健康度との対比。(三) 自覚健康度と運動の理解の相関(+)として研究の余地がある。以上この他種々なる4～20年迄の女子を対象にした環境調査は出来得るし、必要とするが吾々教師が今迄経験・概念の上に実施していたデータは出て来た調査の結果と比較して見ると、種々なるあやまりを見出し、又研究せねばならぬ多くの点を見出すことが出来た。であるから健康教育にあっては環境把握の種々調査の必要性と、又学校において又各職場においてする必要を認める。この簡単なる健康基本調査が、今後の研究せねばならぬ多くの点を見出すことが出来たことは誠に幸なことである。

本調査については、池田学長・八木教授・平松教授の絶大なる御支授と、短大学生木本・村越・山口・山本等諸君の供助を併せて感謝致します。

参 考 文 献

- | | |
|----------------|----------------------|
| 1. 保育のための児童心理学 | 乾 孝 著 |
| 2. 成長と発達 | 教師養成研究会 第4輯 |
| 3. 児童心理 | 阪本一郎 著 |
| 4. 発達心理学入門 | K・コフカ 著 |
| 5. 教育のための標準検査 | 牛島義友 著 |
| 6. 体力の発達について | 丸山良二 著 |
| 7. 欲求の心理と指導 | 横瀬善正 著 |
| 8. 健康教育の理論と実際 | 荷見・浜田 共著 下田・岩本 |
| 9. 女子体育 | 大谷武一 著 |
| 10. 保健教育集成 | 保健教育研究会 著 |
| 11. 素質検査の実際 | 三木知一 著 |
| 12. 健康教育 | 斎藤一男 著 |
| 13. 抜取検査 | 芳野・唐津・松本 田口・大前 共著 |
| 14. 中西体力科学 | 2 の 1 号 |